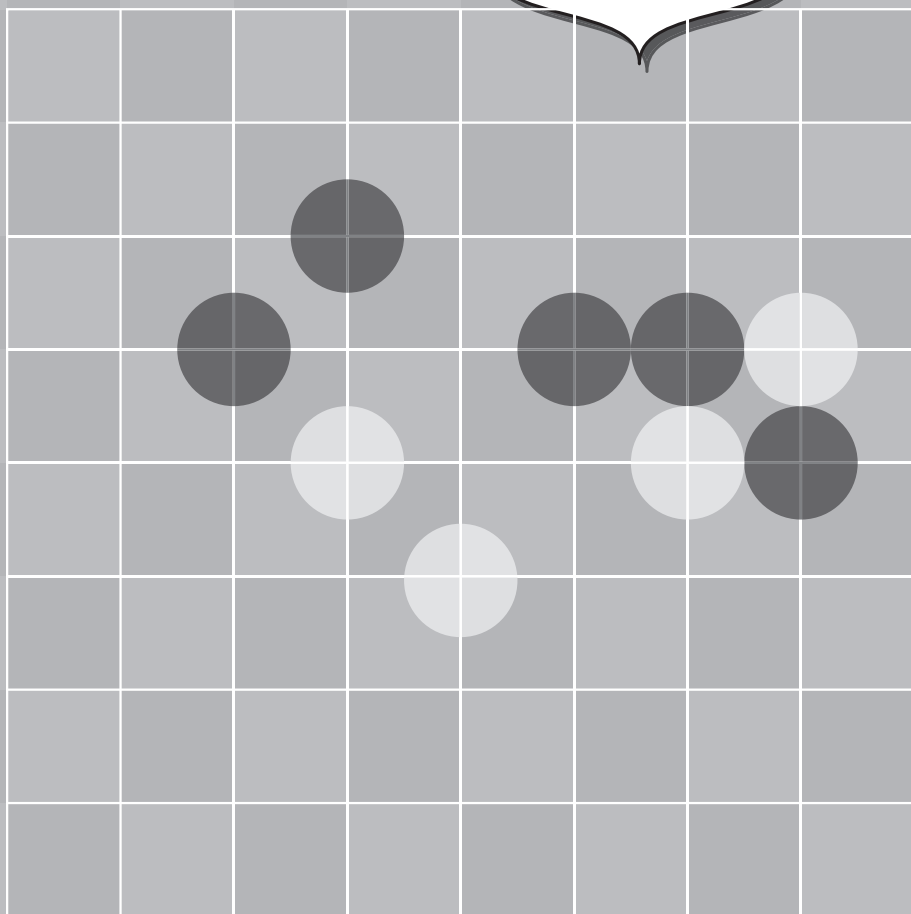


囲碁入門 ネクスト

9路盤



2

日本棋院

第3章

目次

はじめに――2／「囲碁入門ネクスト①」の復習――4

第1章 模範碁へ中盤く終局――5

第2章 上手な終盤の戦い方――17

どちらの陣地でもない所「ダメ」――18／陣地の境界線を意識する――21／壁の弱点「ナナメ」に注意――29
壁の中の「置ける所」と「置けない所」を見分ける――37

第3章 助からない石――47

取られない石(生き石)と助からない石(死に石)――48／助からない石の扱い――55／助からない石がある
場合の得点計算――57／陣地(得点)を数えやすくする「整地」――58

第4章 特殊な形「コウ」と「セキ」――63

同じ形は繰り返さない「コウ」――64／終局間際のコウとバスの使い方――65／どちらが置いても損をする
形「セキ」――71

第5章 総合問題――79

おわりに――92

コラム……早打ちと長考派――16／「待った」はダメ！――46／対戦の記録「棋譜」――62／囲碁と落語――78

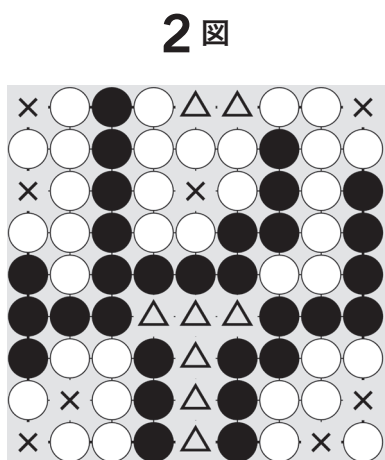
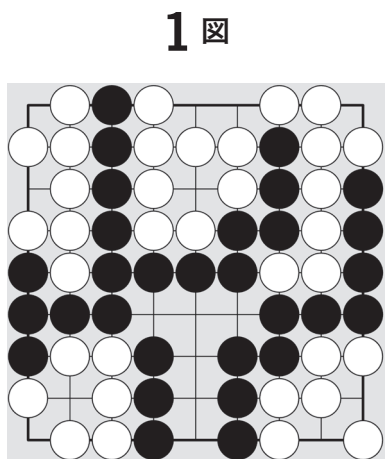
第3章

助からない石

盤上の石には、「取られない石」と
「助からない石」があります。
本章では、石の「生き死に」を学びます

取られない石（生き石）と 助からない石（死に石）

石が増えると「取られない石」と「助からない石」ができていきます。取られない石とは、1図のような黒石や白石です。黒石や白石は相手に切られないように、それぞれの仲間がしっかりとつながっているため、取られることはありません。

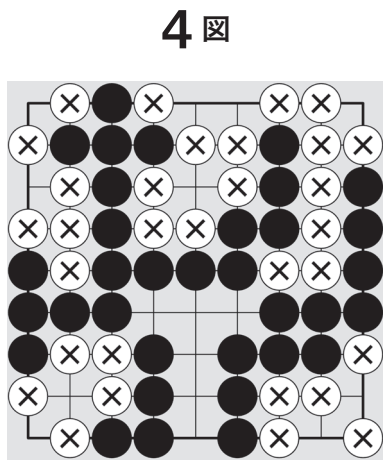
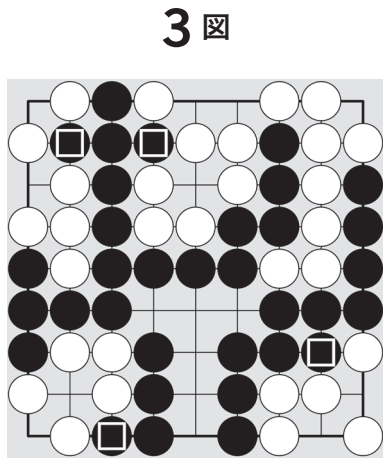


2図の×は着手禁止点が適用されるため、相手が入ることはできません。△の所に相手が石を置くことはできませんが、周りの仲間と協力して最終的には線をふさいで取ることができそうです。このような状態の石が取られない石となります。

- 取られない石（生き石）の条件
- ① 多くの仲間とつながっている
 - ② 手数が多い
 - ③ 相手が置けない陣地を多く持っている
 - ④ 相手が陣地の中に石を置いてきても、最終的には取ることができる

他にも特殊な取られない形（71ページで説明するセキなど）はありますが、多くの仲間とつながりつつ、相手が置けない陣地を数多く持っている石が取られない石となります。

さて、白石が●(●)に変わった**3図**だとうでしようか。仲間とつながっていない心細い白石が増えました。また、白石の手数はどれも1手(1カ所)か多くても2手で、黒石に簡単に取りられてしまいそうです。白が石を置いたとしても、「仲間から出る線」も「陣地」も増えません。かえって陣地をつぶしてしまう

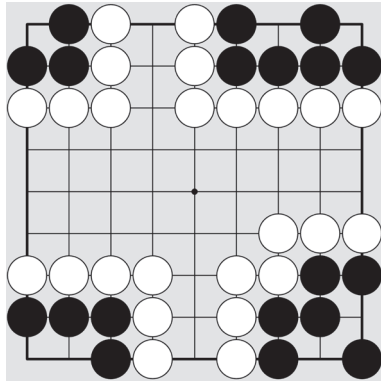


所まであります。この状態ではどこに置いて損をするだけなのです。したがって、**3図**の状態から白石を助けることはできません。逆に、黒からいつでも取られる可能性だけが残るのです。このように**相手からいつでも取られる石が、助からない石**となります。

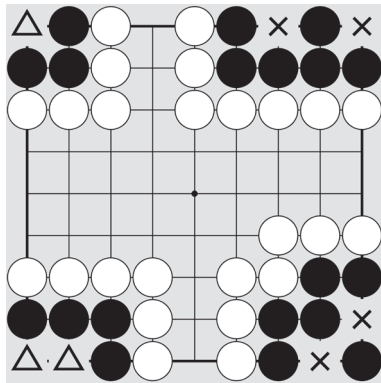
4図の(X)は助からない石です。白からは助ける手段がなく、黒からは順を追っていけばすべての白石を取れることを確認してください。助からない石は、対戦中に取る必要はありません。しかし、助からない石の判別がつかない場合には、陣地を損したとしても追いかけて確認してみましょう。

- 助からない石(死に石)の条件**
- ① 仲間とつながっていない
 - ② 手数が少なく、最終的には相手に取られる
 - ③ 陣地が少なく、最終的には相手に取られる
 - ④ 相手の石を取れたとしても、最終的に相手に取り返される

5図



6図



囲碁用語では、助からない石のことを「死に石」といい、取られない石のことを「生き石・活き石」といいます。つまり、49ページの助からない石は死んでいる石となります。

5図をご覧ください。どの黒石が取られない石で、どの黒石が助からない石かわかりますか。

6図の×は着手禁止点により白が置くことができないので、黒石が取られることがあります。右上と右下の黒石は生きています。

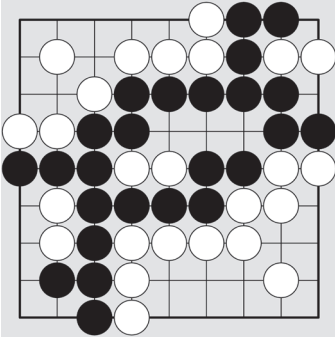
左上の黒石は白に△へ置かれて取られてしまいますし、左下も△に置かれると最終的には白に取られてしまうため、死に石となるのです。

6図の×のように相手が置いてくることができない場所（着手禁止点などの陣地）のことを、「眼」といいます。眼は、陣地（目）に仕切りを入れた一つの部屋と考えるとよいでしょう。

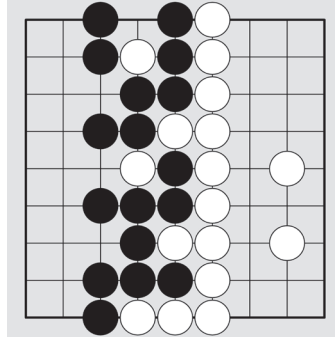
6図の×のように眼を2カ所持している石を「二眼生き」といって、相手に囲まれている状態での「最低限の陣地を持った取られない石」を生き石となります。眼を持って生きるためには次の条件が必要です。

- ・ 眼を持って生きるための条件
 - ・ 相手が置けない陣地を持っている
 - ・ 眼を2カ所以上持っている

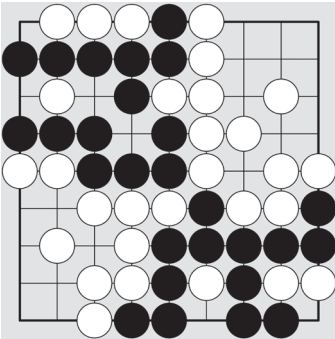
第 64 問



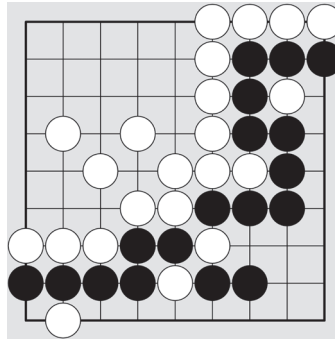
第 61 問



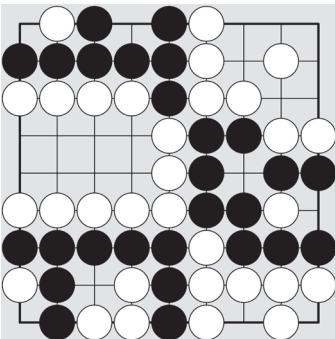
第 65 問



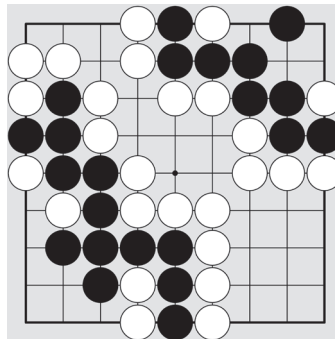
第 62 問



第 66 問

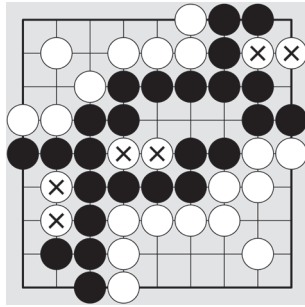


第 63 問

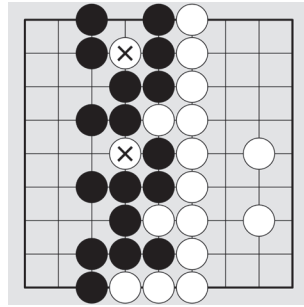


助からない白にXを書いてください

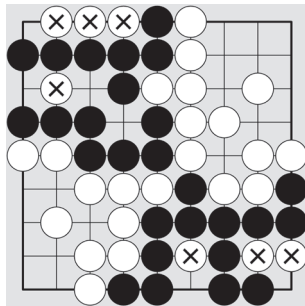
第 64 問



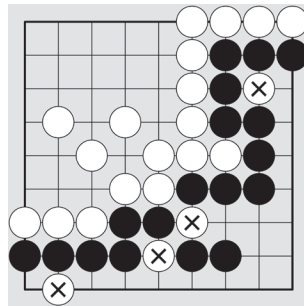
第 61 問



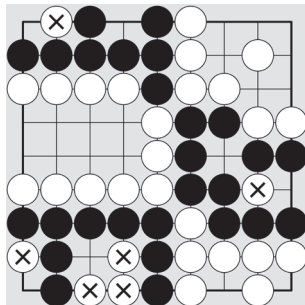
第 65 問



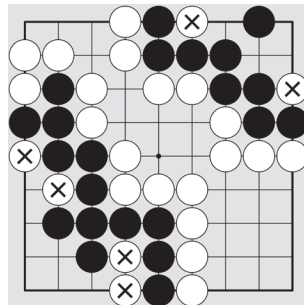
第 62 問



第 66 問

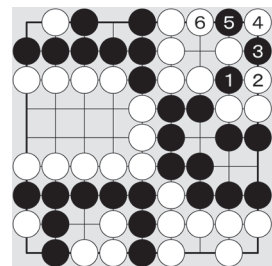


第 63 問

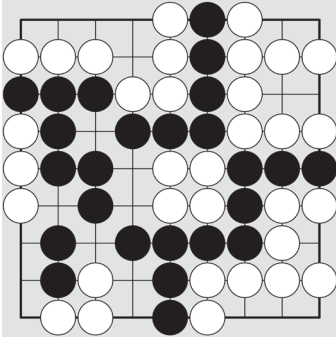


第 66 問 参考

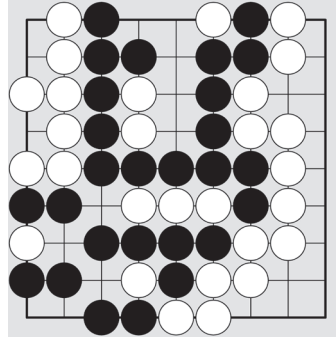
「右上の白が弱そうだ」と①から狙っても、白に的確に対応されると⑥で撃退されてしまいます。黒3子が取られた跡地は着手禁止点で、黒は置くことができません。白が「生き石」であることが確認できました。



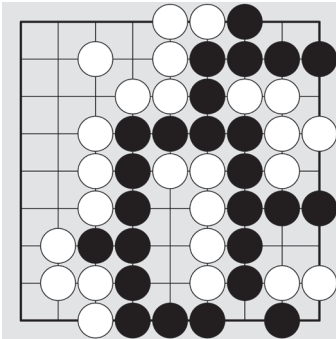
第 70 問



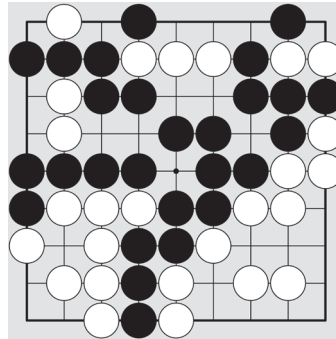
第 67 問



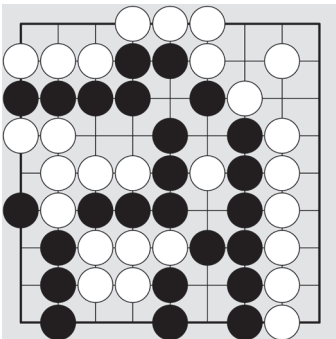
第 71 問



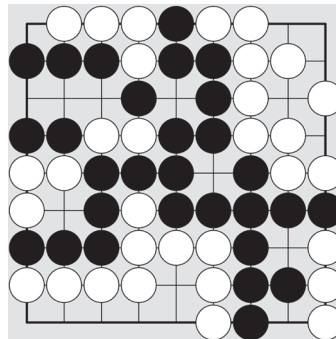
第 68 問



第 72 問

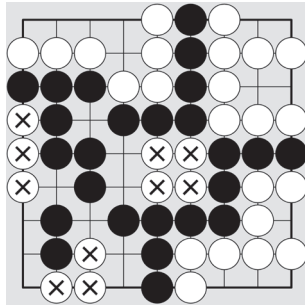


第 69 問

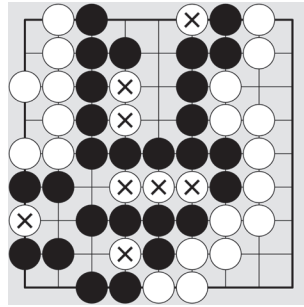


助からない白にXを書いてください

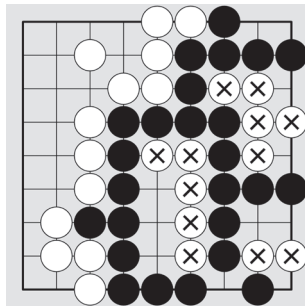
第70問



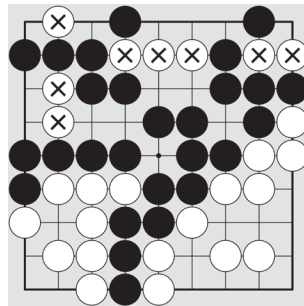
第67問



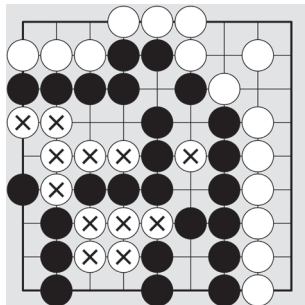
第71問



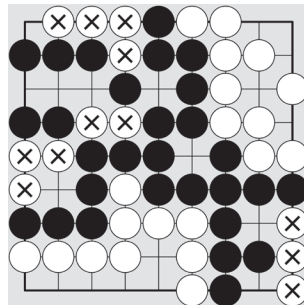
第68問



第72問

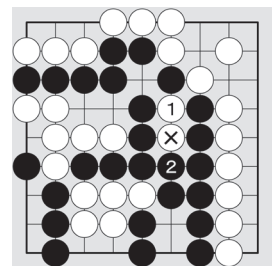


第69問



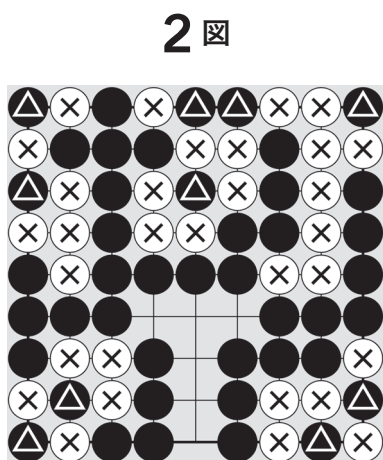
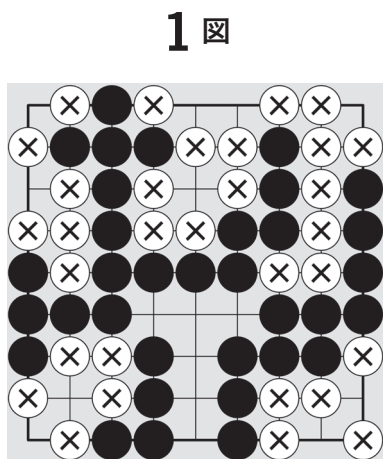
第72問 参考

白が①と置いて「助からない石」を動き出しても、②で白2子を取ることができるので問題ありません。相手の石を取って、自分の石が盤上に生き残ればよいのです。

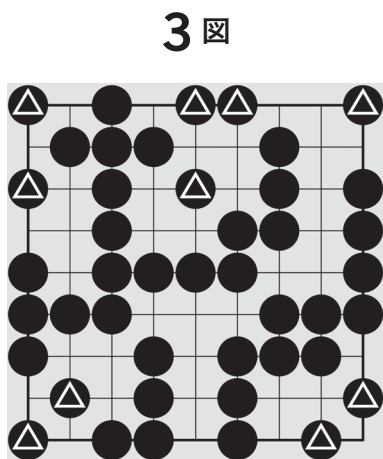


助からない石の扱い

どんなに助かる見込みがない（少ない）石とはいえ、対戦中であれば線が1本でも出ている限り盤上に残ることが出来ます。しかし、終局をして得点計算の時間になると話は変わります。49ページ4図を1図として再掲します。⊗が助からない石だ



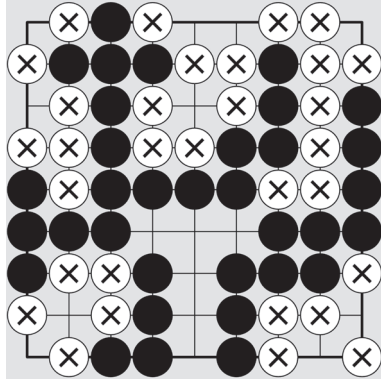
.....→ ○×31



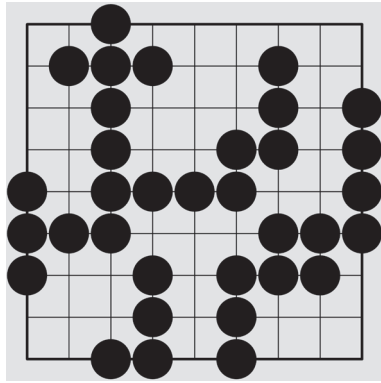
ということはおわかりました。それでは、助からない石は対局中にどのように扱うのでしょうか。たとえば助からないとわかってい

の陣地を減らしてしまうのがわかるでしょうか。助からない相手の石を取るために、自分の陣地の中に石を埋め、無駄なことをしているのです。そこで「助からない石は対戦中に取らずに、終局後そのまま取り上げる」という特別な扱いがあるのです。

4図



5図



……→ ○×31

55ページ1図を再掲します。終局後も助からない石が盤上に置いてあるままでは、陣地がはつきりせず得点計算がうまくできません。そこで、終局をして得点計算になったら、助からない石は相手がそのまま盤上から取り上げます。石の周りの線を囲む必要はありません。

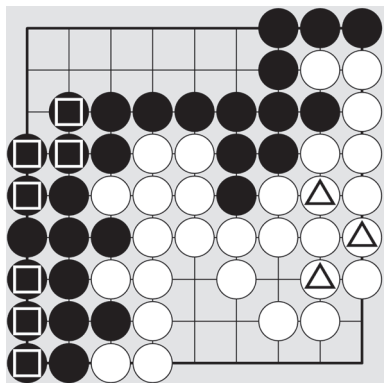
4図の(X)を、黒がすべて取った図が5図です。黒が取った白石31子は、対戦中に黒が取ったアゲハマと合わせて保管しておきます。盤上がすつきりして、残った空き地が黒の陣地であることが確認できました。黒の陣地が、55ページ3図と比べて大きく増えています。

ときには、助からない石かどうか判断が悩ましいこともあるでしょう。難しい判断ですが、相手の石が盤上において心配なら対戦中に線をふさいでしつかり取り除く、対戦中に取らなくても問題ないと思えば悠々と構えて、得点計算の際に線をふさがず取り除きましょう。対戦を繰り返していくなかで、取らなくてもよい石を取って損をしたり、取らなかつたせいで相手に生き返られたりといった経験を積むことが上達へとつながります。

助からない石がある場合の得点計算

終局後の模範碁を1図に再掲します。黒の助からない石は3子あったので、対戦中に白が取った黒4子と合わせて白のアゲハマは黒7子です。黒のアゲハマは対戦中に取った白3子だけでした。それぞれのアゲハマ(●)(▲)を、相手の陣地に埋めます。

1 図



- ① 終局する
- ② 相手の助からない石を取り上げて、対戦中に自分が取ったアゲハマと一緒にする
- ③ 自分が取ったアゲハマと助からない石を相手の陣地に埋める(黒の取った白石は白の陣地へ、白の取った黒石は黒の陣地へ埋める)
- ④ 残った陣地(≡得点)を数える
- ⑤ 得点の多いほうが勝ち

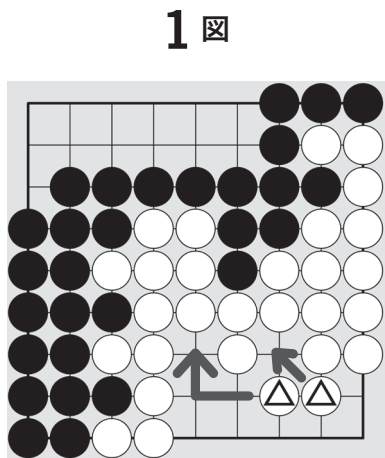
しかし、アゲハマや助からない石が多い時の計算では、次の注意が必要です。

通常は「自分が取ったアゲハマを相手の陣地に埋めて、残った陣地が得点」なのですが、取ったアゲハマが相手の陣地より多いと余ってしまふことがあります。この場合は、**取った石をそのまま自分の得点として数え、陣地と合わせて得点にします。**

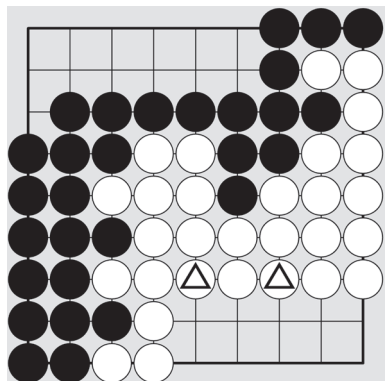
また、**お互いの陣地が取った石で埋め尽くされた場合は、残っているアゲハマの多いほうが勝ち**となります。

陣地(得点)を数えやすくする「整地」

1 図をご覧ください。57 ページで得点計算をした図ですが、左上の黒の陣地は真つすぐになつており、得点が数えやすい形です。それに比べると右下の白の陣地は凸凹があつて数えにくいですね。数えにくい原因は、陣地の中で出っばつてゐる△です。



2 図



2 図をご覧ください。白の陣地の中で出っばつてゐた△をへこんでゐる所へ移動しました。これなら5×2=10目と一目で計算ができて、1 図より手間がなくなります。

このように、アゲハマを埋めたり、陣地を数えやすい形にしたりする作業を「整地」といいます。

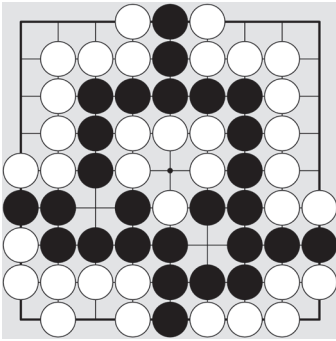
整地は部屋の模様替えです。部屋の広さが変わらなければ、その中でいくら机や棚などの物を移動しても広さは同じです。きれいに整理整頓をすればすっきりと見えるようになります。

整地には他にもコツや注意点があるので、詳しくは『囲碁初心者』のテキストでお話しします。

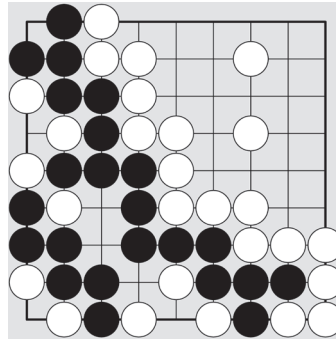
上手に整地をする「コツ」

- ・陣地の出っばつてゐる石をへこんでゐる所へ移動して、壁枠を真つすぐにする
- ・直線で数えやすい端は残して移動する

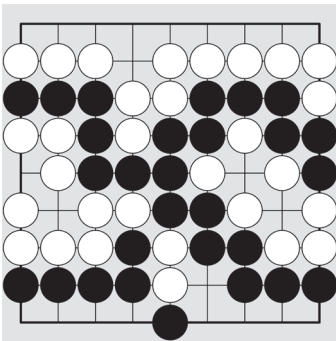
第 76 問



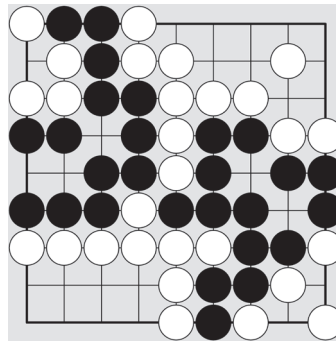
第 73 問



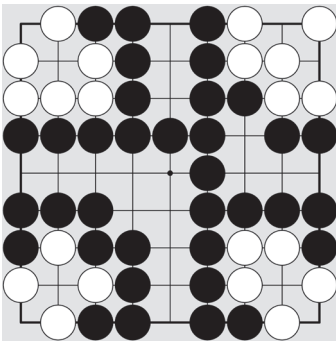
第 77 問



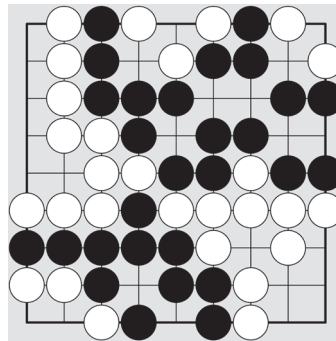
第 74 問



第 78 問

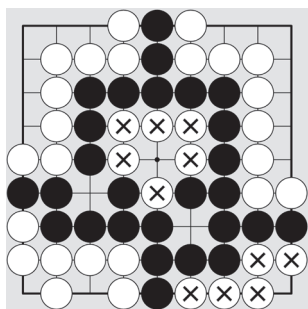


第 75 問

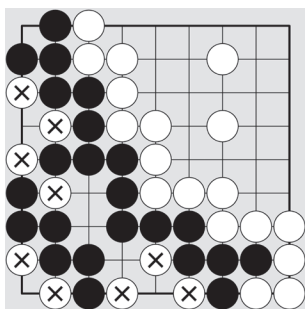


助からない白にXを書いてください

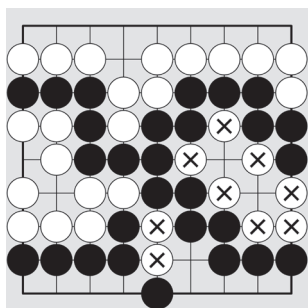
第76問



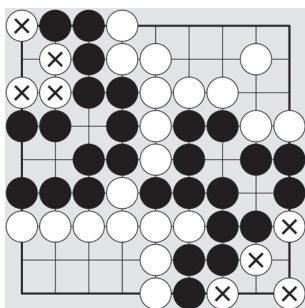
第73問



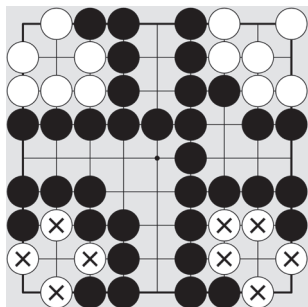
第77問



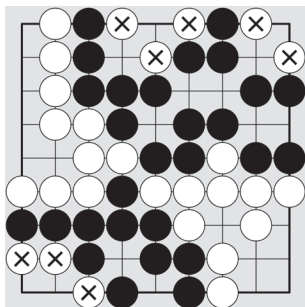
第74問



第78問

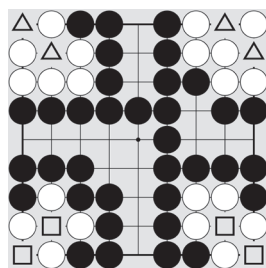


第75問



第78問 参考

△の着手禁止点に、黒は置くことができません。つまり、△のある白石は「取られない石」になります。一方の口は、黒が白石を取りながら置いていくことができます。この違いで、石の「生き死に」が決まっていきます。



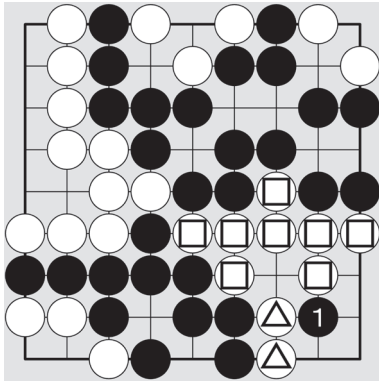
解説

1図は第75問の再掲です。右下の白はどうなっているでしょうか。

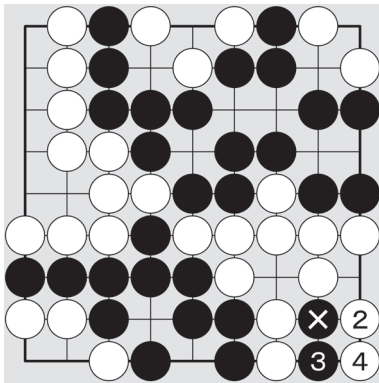
①が、△と□をつながらせないようにする有力な攻め方です。白は入ってきた①を取れないと、白の陣地だと主張することはできません。

白は、2図の②が良い攻め方です。

1図



2図

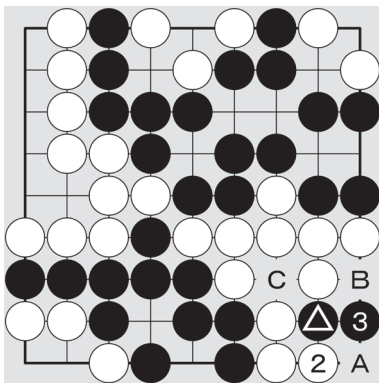


...> ●×2

た。③で白2子がアタリでも、黒2子から出ている線は1本だけなので、④に置いて黒を取ることができました。すると、白の陣地の中の仕切りが増えて、黒が置けない陣地であることが明確になります。

白が3図の②から追いかけると③

3図



に逃げられて、AとBの2本の線でアタリになっていません。続けて白がAで黒を取ろうとすると、黒はCに置いて白を取り、Bから攻めても同じくCで白が取られてしまいます。この不思議な形は、次章で詳しく解説します。

対戦の記録 「棋譜」

本書をお読みの皆さまは、もう囲碁の世界になじんでいらつしやることと思います。囲碁は対戦をするだけでも十分に楽しいのですが、それだけではなかなか強くなれませんし、囲碁の奥深い世界を堪能できません。

本や雑誌、ネットやパソコンなどで、勉強や観戦をすることでさらに囲碁を楽しみ、奥深さを堪能することができるのです。

勉強の時に必要不可欠なものが「棋譜」です。

棋譜は囲碁の対戦や定石などを記録することで、いつでもその手を再現することを可能にしたものです。囲碁のことを指す「棋」と、「楽譜」や「画譜」などのように物事を系統立てて記録した「譜」を合わせて、「囲碁を記録したもの」ということです。

この棋譜があるおかげで、はるか昔の名人の対戦を勉強したり、遠くの地で打っている対戦を観戦したりすることが可能になりました。

世界最古の棋譜といわれているものは、中国で棋譜を収録した最古の棋書とされる「忘憂清楽」とされていますが、真偽のほどは定かではありません。

日本では政局が安定して、伝統文化を庇護した徳川幕府・江戸時代から盛んに棋譜が取られるようになりました。専門家から庶民まで多くの人の棋譜がかわらばん瓦版や本で全国各地に広まったことで、囲碁を楽しんで勉強する愛好家が増えていったのです。

世界各地からどんな棋譜が届けられるのか、これからも楽しみでなりません。

囲碁入門ネクスト②〈9路盤〉

第3章

監修：棋士 水間 俊文

© NIHONKIIN All Rights Reserved.

〒102-0076 東京都千代田区五番町7-2

公益財団法人 日本棋院

☎ (03) 3288-8723

<https://www.nihonkiin.or.jp/>

本書掲載の文章・図版の無断複製・転載・印刷を禁じます。